GMO（遺伝子組換え生物）を支持するノーベル賞受賞者からの書簡

2016年6月29日

グリーンピース、国連、そして各国政府指導者へ：

国連食糧農業プログラムは世界人口の増加による需要増加に対応するため2050年までに食糧、飼料、繊維の生産を倍増しなければならないと強調してきた。グリーンピースを筆頭とする、植物育種の最新技術に反対する組織は繰り返しこの事実を否定し、バイオテクノロジーによる農業技術の革新に異議を唱えてきた。このような組織はこの技術革新のリスク、恩恵、影響力についての事実をわい曲して伝え、承認が得られた野外試験および研究プロジェクトを破壊する違法行為を支援してきた。

私たちはグリーンピースおよびその支援者たちに、世界の農業生産者および消費者が享受してきたバイオテクノロジーによる農作物及び食品の向上と向き合い、権威ある学術団体、規制機関による研究成果を認め、GMO（遺伝子組換え生物）、とりわけゴールデンライスに対する反対活動を中止するよう、強く求めるものである。

世界の学術団体および規制機関は繰り返し行われた試験研究を通じ、バイオテクノロジーにより改良された農作物および食品は、それ以外の農法により生産された農作物および食品と比べ、それ以上とは言わないまでも等しく安全であるとの結果を常に得てきた。バイオテクノロジーによる食品がヒトおよび家畜の健康に有害であると確証のとれた結果はこれまで一例も報告されていない。また、それらの環境に対する影響は従来農法に比べ小さく、生物多様性を保護するものであることが繰り返し明らかにされてきた。

グリーンピースはゴールデンライスに対する反対運動の急先鋒に立ってきた。ゴールデンライスはビタミンA欠乏症患者を死とその病魔から救う可能性があり、アフリカおよび東南アジアの貧困層に大いなる光明を与えるものである。

世界保健機関の推計では、ビタミンA欠乏症患者は2億5000万人に達し、発展途上国の5歳以下の子どもの40%が罹患しているということである。ビタミンA欠乏症は免疫機能を損なうことにより乳幼児、小児を病気の危険にさらすもので、ユニセフの統計によれば年間100万から200万の防ぎえた死の原因となっているとのことである。ビタミンA欠乏症は子どもの失明の最大の原因となっており、世界で毎年25万から50万人の子どもが失明している。そして彼らの半数は光を失ってから12か月以内に死を迎えているのだ。

**私たちはグリーンピースに対し要求する**、バイオテクノロジーを用いて改良された農作物および食品、とりわけゴールデンライスに対する反対運動を中止すべきである。

**私たちは各国政府に対し要望する、**バイオテクノロジーを用いて改良された農作物および食品、とりわけゴールデンライスに対するグリーンピースの反対運動を拒絶し、持てる力すべてを使ってグリーンピースの活動に対抗し、最新の生物学のすべての技術、特に、バイオテクノロジーを通じて改良された種子が農業生産者により利用されるよう推進すべきである。　事実に反した、感情と独断的な意見に基づく反対運動は中止させられるべきである。

世界中の貧しい人々が、どれだけの命を落としたら、これが「人道に対する罪だ」と考えられるようになるのであろうか。

草々

（バイテク情報普及会訳）